

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K20541

研究課題名（和文）地域リハビリテーションの構築に向けた協働学習プログラムの開発と検証

研究課題名（英文）Development and validation of a collaborative learning program for building community rehabilitation

研究代表者

後藤 亮平（Ryohei, Goto）

筑波大学・医学医療系・助教

研究者番号：20780092

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：地域リハビリテーションの構築に向けて、本研究ではプライマリ・ケア医とリハビリテーション専門職が協働して行う学習プログラムを開発するため、プライマリ・ケア医が行う外来診療や訪問診療、また多職種カンファレンスのフィールドワークを行った。これらの調査の結果をもとに、協働学習プログラムで用いる動画を制作した。プライマリ・ケア医がリハビリテーションの視点を学ぶというだけでなく、プライマリ・ケア医が行う外来診療・訪問診療に活かすことができる構成になっている。本協働学習プログラムがもたらすプライマリ・ケア医への影響だけでなく、プライマリ・ケア医と協働する他職種への影響については今後も継続して検証していく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、地域において連携協働のリーダーシップを担うプライマリ・ケア医を対象にした地域リハビリテーションに関する学習プログラムの開発であり、実際にフィールド調査の結果をもとに協働学習プログラムを開発した。普段、外来・訪問診療で患者/家族に接するプライマリ・ケア医が、今回開発した協働学習プログラムを通して、患者/家族の生活をみる視点を持つことで、潜在化していた問題に気づき、他職種と情報共有することにつながることを期待している。しかし、現時点ではこれらの効果は検証できていないため、今後も引き続き取り組んでいきたい。

研究成果の概要（英文）：In order to develop an educational program for primary care physicians for the establishment of community rehabilitation, this study conducted fieldwork by primary care physicians at outpatient clinics and home-visit clinics, as well as at multi-professional conferences. Based on the results of these surveys, videos were produced for use in the educational program. The videos are designed not only to assist primary care physicians in learning rehabilitation perspectives, but to also help apply them to outpatient and home-visit consultations. We will continue to examine the impact of this educational program on both primary care physicians and the professionals who collaborate with them.

研究分野：リハビリテーション

キーワード：プライマリ・ケア リハビリテーション 教育 協働

## 1. 研究開始当初の背景

地域に住む人々が障害の有無や年齢に関係なく、その人らしく生活できるような地域リハビリテーションの構築が必要とされている。一方、非リハビリテーション専門職の中には、リハビリテーションとはすなわち訓練という認識が根強いこと、またリハビリテーション専門職が不足する地域が多いことから地域リハビリテーションの普及には至っていない。特にリハビリテーション専門職が不足する地域では、非リハビリテーション専門職が実践共同体(学びのための共同体)を構築し、職種間の持続的な相互交流を通じて地域リハビリテーションについて学び、実践していくことが期待される。しかし、自然発生的に実践共同体が構築されることは難しく、コアとなる熟達者の育成が必要とされる。

## 2. 研究の目的

地域において連携協働のリーダーシップを担うプライマリ・ケア医とリハビリテーション専門職が Off-the-job で行う地域リハビリテーションに関する協働学習プログラムを開発すること、またプライマリ・ケア医は協働学習から何を学び、いかに地域リハビリテーションの実践共同体を構築していくのかを明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 協働学習プログラム開発に向けたニーズ調査

地域リハビリテーションに関する協働学習プログラムを開発するためのニーズと現状調査として、診療所において多職種で行われるリハビリテーションカンファレンスの調査、プライマリ・ケアに従事する専攻医へのリハビリテーション教育の効果検証を行った。

#### 診療所内で行われるリハビリテーションカンファレンスの調査

研究の対象は、ある診療所で行われているリハビリテーションカンファレンスに参加する診療所内外の専門職とし、リハビリテーションカンファレンスの内容を録画・録音した。またカンファレンス後には、各専門職に対して「リハビリテーション専門職との協働やリハビリテーションカンファレンスをおして何を学んでいるのか」についてインタビューした。これらのデータを用いて、各専門職がリハビリテーションカンファレンスから何を学び、どのように自分自身の臨床実践に活かしているのかを分析した。

#### プライマリ・ケアに従事する専攻医へのリハビリテーション教育の効果検証

訪問診療を行う専攻医を対象に、研究者(理学療法士)から地域リハビリテーションに関するレクチャーを行った後、実際に専攻医の訪問診療に同行し、リハビリテーションの視点について意見交換するとともに、地域リハビリテーションを実践する上で医師に期待する役割を伝えた。訪問診療の同行を終えた後、専攻医に対して、理学療法士によるレクチャーや訪問診療同行をおして、どのような学びや気づきがあったかをインタビューした。

### (2) 協働学習プログラムの開発

(1)の結果をもとに、地域リハビリテーションに関する協働学習プログラムで用いる動画を制作し、で制作した動画を用いた協働学習プログラムを開発した。

## 4. 研究成果

### (1) 協働学習プログラム開発に向けたニーズ調査

#### 診療所内で行われるリハビリテーションカンファレンスの調査

リハビリテーションカンファレンスに参加する多職種は、患者・家族の生活に着目したりリハビリテーションカンファレンスへの参加意義を感じており、理学療法士が持つ生活の視点から学びを得ていた一方、カンファレンスに参加するための時間的制約が大きいことや、医師・看護師等と対等にディスカッションできないことに課題を感じていた。

#### プライマリ・ケアに従事する専攻医へのリハビリテーション教育の効果検証

専攻医は、理学療法士が同行した訪問診療における、理学療法士とのやりとりをおして普段医学的処置を優先するあまり、患者の生活状況を十分把握していないことに気づき、今後は医学的処置だけでなく、生活環境(段差や手すりなど)に問題がないかをチェックし、必要に応じて他職種に情報共有していくことが重要であると感じていた。

### (2) 協働学習プログラムの開発

#### 協働学習プログラムで用いる動画の制作

プライマリ・ケア医が行う外来診療・訪問診療のセッティングを想定し、診療場面の動画を制作した。一つ目は「よくありそうな診療場面」、二つ目は「患者/家族の生活の視点を重視した診療場面」である。また患者/家族の生活場面に関わることが多い訪問リハビリテーションセラピストの視点を伝えるために、訪問リハビリテーションセラピストへのインタビュー動画を制作した。動画の一覧は表1のとおりである。

表 1. 制作した動画一覧

No	タイトル	内容の説明	時間
1	外来診療場面 (患者 A)	「よくありそうな外来診療場面」であるが、この外来診療で医師が収集した情報からは、患者/家族の生活の様子がほとんど分からない。	約 4 分
2	外来診療場面 (患者 A)	訪問リハビリテーションセラピストの視点をヒントに、医師が生活の視点を入れた外来診療場面となっている。	約 10 分
3	訪問診療場面 (患者 B)	「よくありそうな訪問診療場面」であるが、この訪問診療で医師が収集した情報からは、患者/家族の生活の様子がほとんど分からない。	約 4 分
4	訪問診療場面 (患者 B)	訪問リハビリテーションセラピストの視点をヒントに、医師が生活の視点を入れた訪問診療場面となっている。	約 10 分
5	訪問リハビリテーションセラピストの視点	訪問リハビリテーションセラピストが普段どのような視点を持って患者(利用者)の訪問リハビリテーションを行っているかについてインタビューした動画である。	約 10 分
6	患者 A の訪問リハビリテーションについて	外来診療場面に登場する患者 A の訪問リハビリテーションを担当しているセラピストに、患者 A の訪問リハビリテーションについてインタビューした動画である。	約 10 分
7	患者 B の訪問リハビリテーションについて	訪問診療場面に登場する患者 B の訪問リハビリテーションを担当しているセラピストに、患者 B の訪問リハビリテーションについてインタビューした動画である。	約 10 分

動画を用いた協働学習プログラムの開発

プライマリ・ケア医を対象に実施する協働学習プログラムを開発した。(プログラムの構成は表 2 のとおりである)

表 2. 開発したプログラムの主な構成 外来診療場面の動画を用いる場合

内容	内容の説明
導入	「リハビリテーション」とは何か、プライマリ・ケア医になぜリハビリテーションの視点が必要なのかについて説明する。
動画視聴	外来診療場面の動画を視聴する。
グループ(個人)ワーク	外来診療場面の動画を視聴して「患者 A の生活がどのくらい想像できたか」についてグループワーク(または個人ワーク)する。
動画視聴	患者 A の訪問にリハビリテーションについて、の動画を視聴してセラピストが持つ生活をみる視点を学ぶ。
グループ(個人)ワーク	「訪問リハビリテーションセラピストはどのような視点でこの患者の生活をみているのか」についてグループワーク(または個人ワーク)する。
振り返り、まとめ	全体を振り返り、プライマリ・ケア医として今後の診療や多職種連携協働の中でどのように活かしていくのかをまとめる。

【今後の展望】

今回、地域において連携協働のリーダーシップを担うプライマリ・ケア医とリハビリテーション専門職が Off-the-job で行う地域リハビリテーションに関する協働学習プログラムを開発した。これまでに医学教育の中ではリハビリテーションに関する教育機会が少なく、プライマリ・ケアに従事するプライマリ・ケア医の中にも、リハビリテーションの知識不足に課題を感じている者も少なくなかった。今回開発した協働学習プログラムは、プライマリ・ケア医をはじめ多職種におけるリハビリテーションの知識や視点の理解を深め、多職種が連携して地域リハビリテーションを構築していく一助になることが期待される。本プログラムの効果については今後も継続して調査し発信していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------